

# 船舶事故調査報告書

平成30年3月28日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成29年11月9日 08時00分ごろ
発生場所	香川県 <sup>みとよ</sup> 三豊市 <sup>つむ</sup> 積漁港北方沖 箱崎灯台から真方位116° 1.2海里付近 (概位 北緯34° 15.1′ 東経133° 36.8′)
事故の概要	プレジャーボートたか丸は、南東進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成29年11月14日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート たか丸、5トン未満（長さ6.66m）
船舶番号、船舶所有者等	273-10264香川、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に破口を伴う擦過傷
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南南東、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 低潮時
事故の経過	<p>本船は、船長1人が乗り組み、釣り餌を取る目的で、積漁港南東方沖に向けて同漁港北方沖を南東進した。</p> <p>本船は、船長が、GPSプロッターを作動させ、操舵室の椅子に腰を掛け、主に目視で見張りをを行いながら操舵に当たり、約30km/hの対地速力で手動操舵により南東進中、浅所に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.2m、船尾約0.5mであった。</p> <p>船長は、積漁港北方沖を幾度も航行した経験があり、浅所の存在を承知していた。</p> <p>船長は、本事故当時、釣り餌を取る場所に向けて急いでいたので、GPSプロッターをよく見ておらず、浅所が存在する陸岸寄りの針路となっていることに気付かなかったと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、積漁港北方沖を南東進中、船長が、船位の確認を適切に行っていなかったことから、浅所が存在する陸岸寄りの針路となっていることに気付かず、浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、積漁港北方沖を南東進中、船長が、船位の確認を適切に行っていなかったため、浅所が存在する陸岸寄りの針路となっていることに気付かず、浅所に乗り揚げたものと考えられる。
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れた海域を航行する場合においても、GPSプロッター等を活用して船位を確認し、浅所等からの距離を確保すること。</li> </ul>